



# JAあそだより



波野のキャベツ畑

## ■主な内容

- 第5回通常総代会
- 各生産部会で総会・出荷査定会
- 第2回「まるごとあそっ子スクール」
- 子どもたちが育てた牛をセリに

## ▲ 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5  
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088



## 第5回通常総代会

### 最重点課題に「集落営農づくり」と「生産組織再編整備」

J A阿蘇の第5回通常総代会が6月29日、阿蘇市体育館で総代422人をはじめ来賓・JA関係者ら多数が出席し開かれました。

先ず丸山信義組合長が「戦後の農地解放に匹敵するほどの農業の重要な改革である経営安定対策事業は、行政と両輪を組みながら集落営農を進め、組合員のためのJAをさらに目指します」とあいさつ。

議長に森本康明氏を選任後第1号議案から第5号議案まで、



第5回通常総代会(円内は丸山組合長)



佐藤新理事



議長の森本氏

05年度事業報告・06年度事業計画・世界貿易機関(WTO)農業交渉に関する特別決議など6議案が可決・承認されました。05年度の事業総利益は前年比9.3%減の32億8753万円、経常利益は同18.2%減の1億5653万円、当期剰余金は同20.8%増の1億913万円をそれぞれ計上しました。

また、欠員となっていた理事には佐藤今朝富氏(旧阿蘇町農協山田支所・第一支所区域)が選任されました。

06年度は地域農業の振興「阿蘇ブランド」のさらなる実践として①地域農業を支える担い手「集落営農」づくり②JA生産組織の再編整備が最重点課題として取り組まれることになりました。

### 年金受給者連盟阿蘇支部総会 「事業報告など4議案承認」



農林年金受給者連盟阿蘇支部は6月27日、第30回通常総会を阿蘇市一の宮町で開き、支部会員など66名が出席しました。

先ず小林守男支部長が「農業を取り巻く情勢は厳しく、我々の年金にも影響している。しかし年金は老後の収入財源。足腰の強い連盟にし、受給者の方々と一緒に頑張ろう」とあいさつ。2005年度事業報告書など4議案を承認しました。

議事終了後、農林年金相談員の岡本正憲さんから「農林年金をめぐる情勢」について講演が行われました。

総会に先立ち06年度祝賀者の表彰があり、米寿の5人と喜寿の22人に表彰状と記念品が贈られました。

役員改選による新役員(敬称略)は次の通りです。

- ▽支部長 岩下政秋(阿蘇町)
- ▽副支部長 原山勝(小国)
- 吉良山盛雄(野尻) ▽監事 緒方健一(白水) 井一男(阿蘇町)



慶賀者表彰の方々

## 地域農業戦略を基本とした生産向上に努めよう

### JA阿蘇南部圏営農総合部会



JA阿蘇南部圏営農総合部会では6月21日、南阿蘇村で第13回JA阿蘇南部圏営農総合部会総会を開催し、関係者や部会役員ら85名が参加し開きました。

総会では提案議案の全てが承認され、鶴林豊成総合部会長が「2005年度は価格低迷で厳しい実績となったが、市場のJA取扱販売は価格安定事業の補給金で助かった。今年度はJA販売の強さを発揮し消費者に選ばれる産地を目指そう」とあいさつ。総会後は、5月から施行されたポジティブリストの再確認を経済連の担当者から説明を受けました。

(写真)提案議案を説明する職員

### 南部花卉総合部会

JA阿蘇南部花卉総合部会は6月9日、2005年度総会を部会役員15名が出席し高森町で開きました。

後藤長谷男部会長は「05年度は単価が厳しかったが肥培管理の徹底で前年を上回った。さらにJAが導入している営農コンサル事業の管理指導も成果が見られ、06年度は実施農家も増え指導員指導のもと、目標実績の必達を目指そう」とあいさつしました。

総会では提案された05年度事業報告、収支決算報告、06



## 平成17年度表彰者

6月29日、第5回通常総代会に先立ち、「平成17年度表彰」が阿蘇体育館で行われ、丸山組合長から各関係者に賞状と記念品が贈られました。当日、表彰されたのは方々(敬称略)です。



写真は営農に功労があった方々の表彰

#### 営農関係者

農産(米)	藤井今朝春	(中部営農センター管内)
農産(米)	甲斐 正則	(南部営農センター管内)
園芸(大根・甘藷)	佐藤 隆	(小国郷営農センター管内)
園芸(キャベツ)	市原 学	(中部営農センター管内)
園芸(トマト)	犬塚 賢治	(南部営農センター管内)
畜産(肉用牛)	秋吉 克幸	(小国郷営農センター管内)
畜産	田中 輝久	(中部営農センター管内)
畜産(一貫経営)	日置 一誠	(南部営農センター管内)

#### 共済契約高額者

松尾美穂子	(高森中央支所管内)
田邊 翔子	(小国郷中央支所管内)
家入 為雄	(阿蘇町中央支所管内)

#### 功労表彰

本田 二男 (前理事)

#### 永年勤続者(30年)

石松 雄平	(本所営農部)
首藤 太	(波野支所)
江藤 剛一	(本所営農部)
野尻 英夫	(白水中央支所)
玉目 壽子	(馬見原支所)
有働美由紀	(本所営農部)
惣川佳奈子	(蘇陽中央支所)

年度事業計画、収支予算案、役員改選など全ての議案を承認されました。

06年度役員(敬称略)は次のとおり。▽総合部会長▽後藤長谷男▽副部会長▽山本謙一。田上更生▽会計▽後藤巳幸▽監事▽大内田弘徳・荒牧文博

#### 永年勤続者(20年)

藤吉ひかり	(事務電算室)
河津 英幸	(小国郷中央支所)
高木 志保	(白水中央支所)
室原 竜巳	(小国郷営農センター)
阿部 泰隆	(中部営農センター)
工藤 徳義	(南部営農センター)
穴井千代美	(小国郷営農センター)
永野 幸雄	(小国郷営農センター)
小橋みゆき	(阿蘇町中央支所)
宅野 慎也	(小国郷営農センター)
瀬井 真美	(事務電算室)
白川 幸生	(中部営農センター)
三苦 真弓	(小国郷中央支所)
佐藤 博	(事務電算室)



消費者拡大に向け

さらにPRを

小国郷生しいたけ部会



2005年度JA阿蘇小国郷生しいたけ部会の総会及び出荷査定会が5月29日、小国郷中央支所内Jホールで開催され、部会役員・生産者と関係者ら60人が参加しました。

長崎部会長はいさつで「より多くの消費者に小国郷産のシイタケや国産シイタケの美味しさを理解してもらい、さらに原木シイタケのPRに努めてもらいたい」と抱負を意欲的に語りました。

05年度の生産量はハウス・露地を含め88万5855パック、販売額は7838万円となっています。

また、同部会は4年前から福岡市内の石丸小学校と体験交流を行っており、原木シイタケの安全性などをテーマに同小学校の運動場で、駒打ち体験をし原木から発生シイタケの収穫祭を行っています。今年も2月に同小学校の3年生3クラスの約140人が参加し駒を打ち、試食

を行いました。この試みは全国きのこ新聞や福岡の地元NHKで紹介されました。

なお、総会に先立ち優秀農家の表彰も行われました。最優秀賞は次の方々です。(敬称略)

▽出荷の部 永野幸雄▽品質の部 永野久▽伸長の部 穴井栄一郎▽出荷日数の部 阿南親夫

安心なトマトを消費者に!

南部トマト部会査定会



トマト査定会であいさつする今村部会長

JA阿蘇南部トマト部会では6月7日、取引市場関係者及び生産者168名が参加し、2006年度JA阿蘇南部トマト出荷査定会を開きました。

今村武博トマト部会長は「今

出荷の情勢報告など行っ

南部ミニトマト出荷査定会

JA阿蘇南部ミニトマト部会は6月19日、これから出荷のピークを迎えるミニトマト販売に向けて、2006年度産出荷査定会を開き、部会員ら約60名が参加しました。

まず甲斐敏夫部会長が「規格厳守を励行し、さらに産地の評価を高めよう」とあいさつ。

査定会では、現在までの生育状況報告や出荷規格説明などがあり、部会員は真剣に耳を傾けていました。また取引市場より他産地の品種・出荷状況などの情勢報告も行われました。

年からトレーを使ったトマトの箱詰めとなり、日保ちや押し痛みが少なく品質の向上につながる出荷体勢が整うこととなった。さらにポジティブリスト制度を守り、安心なトマトを消費者に届けよう」とあいさつ。

担当者からは、06年度旬別出荷計画並びにトマトの持込要項の確認が行われました。

南部トマト部会では現在26.3haを栽培しています。

数量の減少傾向が懸念

高森メロン部会出荷査定会



JA阿蘇高森メロン部会では6月23日、出荷最盛期を前に出荷査定会を生産者夫妻、熊本県経済連、JA関係者が参加し行われました。

今年8戸の生産者が2haを作付けし、目標数量50トン、販売高を1500万円と見込んでいます。作柄状況は植え付け時の日照不足に併せ低温が続き、例年に比べ出荷が20日ほど遅れています。品質は例年と比べほぼ変わりませんが、数量が減少傾向にあるのが懸念されています。

三森一男部会長は「ポジティブリスト制の導入から、メロン1玉ごとに生産者番号入りのシールを貼っています。安心・安全なメロン作りを目指しがんばりましょう」とあいさつしました。

写真は次の5ページに掲載しています。

## 最盛期は6月の出荷めざす 南部なす部会出荷査定会



出荷最盛期を前にJ A阿蘇南部なす部会は6月28日、高森総合センターで部会員・役場・阿蘇地域振興局・市場・J A関係者ら26人が出席し出荷査定会を開きました。

森田勝部会長のあいさつ後、担当者より出荷規格と詰め方の要領など今後の出荷体制の説明が行われました。

現在の出荷量は約1トン程度、出荷最盛期には約6トンの出荷量を見込んでいます。

担当者は「今年は日照不足などの影響もあり、出荷最盛期は例年に比べ15日ほど遅れる予

定です。品質は昨年より良質なものが取れています。現在、販売は県内中心ですが、今後は関東・関西方面まで拡大していく予定です」と力強く述べていました。



品質、規格等について確認し合う生産者のみなさん

## 夏場の責任産地を 目指して

### 南部花卉部会出荷査定会

J A阿蘇南部花卉総合部会は7月7日、西日本の花市場13社及び関係者80人を集め、南阿蘇村で平成18年度南部花卉部会出荷査定会を開きました。

九州でも高冷地である阿蘇地区は20年前から花栽培が始まり、今では夏場の責任産地として福岡を中心に出荷をしています。特にトルコギキョウの取扱量は県内では最も多く、夏場の市場取引の大半を占めています。

併せて高冷地の特徴を活かしたスターチスなど多くの品目を栽培しているのも産地の強みとなつていきます。

査定会ではインターネット販売の割合が多くなったことから、後藤長谷男部会長が「気候の変化にも対応できる産地として今後とも安定出荷をしていきます」と抱負を述べました。また花卉担当者からは、生育状況を画像を使った説明と、今年の出荷計画の説明が行われました。

## 高森メロン部会出荷査定会で担当者の説明を聞く生産者のみなさん



南阿蘇村で行われた査定会

## 南小国の加藤宏文さんハウス「くまもとめぐりんネット」取材



加藤さん宅を訪れた諫山さん一家



ハウス前の加藤宏文さん



種子について説明する加藤さん



キュウリの収穫初体験

### 生産者の顔が見える 野菜が安心

JA阿蘇管内の南小国町で6月10日、熊日新聞掲載の「くまもとめぐりんネット」取材が行われました。

加藤宏文さんのハウスに熊本市の諫山努さん一家が訪れ、ハウレンソウやキュウリの収穫や種蒔きなどの農業体験をしました。長女の莉佳ちゃん、二女の草奈ちゃんは不慣れな手つきでしたが、ハウレンソウを楽しそうに収穫していました。

その後、加藤さんの妻の香さんが料理したハウレンソウの天ぷら、ハウレンソウ入り蒸パン、メロンが参加した家族や取材班にも振る舞われ、諫山さん一家からは料理方法やハウレンソウのおいしい食べ方などについて質問があっていました。

諫山さんの妻の路子さんは「普段より、地元野菜や無農薬野菜を購入するように心掛けていますが、きれいな水で栽培された採れたての野菜は本当においしい。生産者の顔が見える野菜は安心ですね」と、感想を述べていました。

### 地産地消をラジオから発信 小国郷特産の大根と ほうれん草

FMKのラジオ番組「キリン恵みくまもと大発見」(毎週土曜昼12時25分〜30分)の取材収録が6月6日、JA阿蘇小国郷営農センター内で行われました。

同番組は地産地消を応援するキリンビールの提供で、熊本県の農産物生産者の方々をインタビューして放送するものです。

今回は小国郷の特産品である大根とほうれん草を紹介。大根部会長の高村夏規さんとほうれん草部会長の宇都宮昭三さんが出演し、それぞれの野菜の特徴



取材を受ける宇都宮部会長(写真左)と高村部会長



や料理レシピ等を語りました。レポーターの吉田さんから「ビールに合う食べ方は?」との問いに、二人ともビールに反応し、ニコッと笑顔でお気に入りの一品を答えていました。この取材は6月17日に大根が、24日にほうれん草が放送されました。

## 阿蘇トマト出荷最盛期へ 撰果機フル稼働中!

J A阿蘇南部野菜センターでは、6月28日よりトマトの出荷が始まりました。今年は撰果機が1週間早く稼働し、早朝から多くのトマトが野菜センターに持ち込まれています。

南部トマト部会では、農家の全ての畑で土壌分析を実施し、過剰肥料の投入を避け、トマトの生育に必要な肥料のみを投入してきました。そのため、まだ小玉も見られますが夏場も出荷が安定して、糖度も高く果形も良く秀品率が高くなっています。今年では昨年対比2割増の59万5000ケースの出荷を11月までに目指しています。



トマトの選果機に向けた選果作業



現場でグラジオラスの生育確認をする生産者

## 高冷地の遊休農地を利用した グラジオラス栽培

### J A阿蘇南部蘇陽花部会

J A阿蘇南部営農センター管内の九州のへそとも言われる山都町には、九州山脈の麓に九州ではここしかないグラジオラスの生産地があります。グラジオラスは蘇陽花部会が生産し、7月と10月の夏秋期に40万本を鹿児島・福岡など九州各地に出荷しています。

球根栽培であるグラジオラスは連作障害が出やすく、圃場の確保から産地が少なかったのですが、同部会では高齢化などで増えた遊休農地を使うことで産地を維持し、地域農業を守っています。

## 夏秋野菜の販売促進めざし 熊本市内の量販店でPR

J A阿蘇は7月8・9日の2日間、南部営農センターの担当店舗である「サンリブシティくまなん店」で、夏秋野菜のPRを兼ねた販売促進会を行いました。売場の一角にはトマト・ミニトマト・ヒゴムラサキ（ナス）などを並べ、女性部員や担当者

最近では品種も多くなり、葬祭や婚礼における需要が増え、会場では多彩なアレンジで装飾されています。また、今ではセリの販売以外に市場を通じたインターネット販売の割合も増えています。ただ新規の生産者はここ数年なく、生産量も減るのではありませんか心配されています。

しかし、生産者は年々元気で面積は増え、部会で最高齢の山村さんが今でも作付面積が一番です。講習会は必ず全員が参加しいつも夜遅くまで会話は弾むそうです。

山本謙一部会長は「みんながグラジオラスの栽培の技術を教え合うことで品質が確保される」と話していました。

が直接買物客に産地紹介を行いつながり、販売に努めました。トマトを試食した客の反応は「様に「甘くて、美味しい」と好評で、いくつも試食用のトマトをほお張る子供もいて大盛況でした。また産地化を目指しているヒゴムラサキは、リピーターの買物客が多く、一人で何本も買っていく客が多く見られました。参加した女性部員は「消費者の意見や試食の感想が生で聞けてよかった」と話し、徐々に増えつつある固定客のことを考え、今後「安全で安心して食べてもらえるJ A阿蘇の夏秋野菜を作っていきたい」と抱負を述べていました。



# キドキ体験!!

## 「あそっ子スクール」 キャンプファイアにトライ!

みんな輪になって  
キャンプファイアを  
囲みました



4組



5組



6組

阿蘇の子どもたちに食と農の大切さを伝える「JA阿蘇まるごとあそっ子スクール」のイベントが7月15・16日、児童39人、JA阿蘇女性部、同青壮年部らJA阿蘇関係者が参加して、久木野育成キャンプ場で開かれました。

今回が2回目となる「あそっ子スクール」では1日目、前回、田植えやサツマイモの苗を植えた圃場を見学して作物の生長ぶりを観察、ミニトマトの収穫もしました。そしてキャンプをするためにテントを張ったり、JA職員を講師に「ちゃくりんの時間」などの学習会やキャンプファイアなども行われました。

みんなで食べる夕食  
おいしいネ!

自分たちで収穫した  
ミニトマトも食べました



夜空ってロマンチック



「ちゃくりん」で学習会



歩け、歩け、  
元気に歩け!!  
ゴールはもう少し





# ワクワク、ドキ

第2回『まるごとあそっ子』  
野外活動やキャンプ



今から「忍び歩き」の巻を  
始めます



ゴールのアスペクタに到着!!



「あそっ子スクール」2日目は、地元の人たちの「くぎのクラブTRY」活動に参加し、「忍び歩き」に挑戦しました。これは地元の物産館「あそ望の郷」からゴールのアスペクタまでの道を班ごとに歩き、目印となる目標物を携帯電話のカメラで撮影し、南阿蘇村役場久木野庁舎のパソコンに送信するというゲームです。全員が同じルートを歩くのではなく、班ごとに計画してゴールまで向かい、最後に役場のパソコン室で自分たちが歩いて撮った写真を画面のゼンリンの地図上で見ることができます。ゲームを終えた子どもたちは、興味深い様子で担当者にいろいろと質問をしていました。

今後「あそっ子スクール」は12月まで計5回開かれ、子牛市場見学や農作業体験などが予定されています。



パソコンで  
写真を確認中



「責任感と自信が持てた」

産山北部小学校

産山村立産山北部小学校の児童18人が、黒牛の赤ちゃんを同小学校内で約3ヵ月ミルクを飲ませて育て、その牛が6月7日、県畜協市場でセリにかけられました。

「もも」と名付けられた子牛



子牛の「もも」



市場で説明を聞く子どもたち

は、鳥インフルエンザの影響で学校の鳥小屋に鶏などがいなくなり、子どもたちが動物と接する機会がなくなつたため、昨年9月、農業の井義光さんが「牛を育ててみては」と提案し子牛を提供しました。

子どもたちは当番を決めて、土日も休まず朝夕にミルクを飲ませ一生懸命に飼育しました。

6月6日に行われたお別れ会では、井さんが「病気をせず大きくくなりました。みなさんが一



「もも」に名残がつかない子どもたち



子牛価格は高値で推移  
第48回高森町優良子牛保留品評会

赤牛の育成で県内でも有数の産地高森町で、JA阿蘇南部営農センター・役場・南阿蘇畜産農協が主催する第48回高森町優良子牛保留品評会が7月18

生懸命に育てたおかげです」と感謝の言葉を述べました。

セリが行われた市場では、子どもたちが書いたメッセージを牛のそばにかけ、頭やほほをなでたりして「もも」との最後の別れを惜しみました。

子牛を飼育した子どもたちは、「動物を養う大変さが分かり勉強になった」「今日は最後の別れでさみしい」と思い出を語っていました。

飼育を担当した先生は「子どもには最初からこの牛が肉になると伝えてあり、改めて食の大切さが分かった。また飼育管理をすることにより子どもたちに責任感が出て自信が持てたようです」と話していました。

「もも」は一の宮町の農家に落札されました。



社鈴の部で優等賞に輝いた佐藤さんの「第3たけひで」

目を聞かれました。

この品評会は若齢の部・社鈴の部・黒毛和種の部と分かれ、出品された78頭の牛を審査員が熱心に観察。若齢の部では城井若生さんの「もりつき」、社鈴の部では佐藤民義さんの「第3たけひで」、黒毛和種の部では山室昭一さんの「ひらまさ」がそれぞれ優等賞に輝きました。

畜産農協の山辺寛美課長は「現在の子牛の価格は高値で推移している。輸入牛肉再開により価格下落が懸念されるが、ポジティブリスト制度の遵守により価格の維持に努めていきたい。子牛の育成は2ヵ月までが勝負で飼料等の供給に気をつけて素晴らしい子牛生産をしてほしい」と期待を寄せていました。

## 新作料理、デザートにもてもてのヒゴムラサキ

### 「ヒゴムラサキ」新料理に挑戦

南部なす部会女性部



J A阿蘇南部ナス部会女性部は部員12人が参加して6月28日、高森町総合センターで阿蘇地域振興局普及指導課の西田先生を講師に招き、料理研究会を開きました。

ヒゴムラサキの特徴は普通のナスに比べ、あくが少なく種も少ないので生で食べてもおいしく、評判で、その特徴を活かし、これまでにヒゴムラサキの辛子あえなど6品を作ってみました。

今回は新たにヒゴムラサキの梅肉あえなど4品目の新作料理



料理研究会に参加した部会員のみなさんと新作料理(上)

を作り、早速、行政関係者とJA関係者が出席し試食会が行われました。

吉良山美津子ナス部会女性部長は「今回4品の新料理を作り大変でしたが、試食会では皆さんに喜んでもらい本当によかったです。今度はナスのレシピを作成し、各地の販売所にレシピを置き皆さんにもおいしいヒゴムラサキを味わってほしいです。そして、販売に関しても拡大していきたい」と意欲を見せていました。

### 手間いらず、お金もかけずデザートづくり

南部なす部会女性部料理研究会

地元の食材赤ナス「ヒゴムラサキ」を使って「手間いらずお金もかけずデザートづくり」をしようと、JA阿蘇南部なす部会女性部は6月30日、料理研究会とNHK熊本放送の番組「うまかもん見つけた」の収録を行いました。

同部会女性部はナスの販売促進のため全国に名前を知ってほしいと定期的に集まり、ヒゴムラサキを使った新料理を提案中です。今回はヒゴムラサキのフルーツパンチ、ヒゴムラサキ入りゼリー、カルパッチョなど計5品を作り試食会を行いました。

試食会に参加した地元の女性たちは「まさか、ナスがこんなデザートになるとは信じられない。このナスだったら、ナス嫌いの子どももおいしく食べますね」と語っていました。



ヒゴムラサキを試食する女性会員



番組収録の様子



## 新入職員研修会で 田中弘子女性部長が講義



講義を行う田中部長

JA熊本教育センターで開催された平成18年度新入職員研修会で6月19日、JA阿蘇女性部の田中弘子部長が「JAの事業」について講義を行いました。JAの成り立ちからJA職員の仕事や各事業について説明しました。

JAの成り立ちでは、組合員の出資金によって設立され、代表理事組合長や理事・監事で運営されている事。職員の仕事については、金融窓口を事例に笑顔でスムーズに対応できるような職員になってほしい。共済については「JA経営の柱になっている事。営農指導については、農

家の声を聞きながら頑張っている」と新入職員に分かりやすく話しかけました。

そして田中部長は「若きJA職員が将来的に仕事ができるJAになるように、私たちも頑張りますので、楽しく、そして組合員とのふれあいを通じて、JAに勤めて良かった」と言われるようにがんばってほしい」と結びました。

女性部長であり理事でもある田中さんの話を聞いた新入職員は、「あいさつの重要性、組合員にとつてのJAが理解できた」と感想を話していました。



講義を受ける新入職員

## 農産物検査員の技能確認を行う



技能確認会で品目・品種の確認を行う  
JA阿蘇職員検査員

JA阿蘇では6月22日、一の宮中央支所で九州農政局地域第四課の指導で農産物検査技術の維持・向上、そして民間検査員の技術を確認するため、技能確認会を開きました。

技能確認会では80点の鑑定試料に品目・品種の鑑定を行いました。検査員は現場さながらの真剣な表情で確認会に取り組んでいました。

農産物検査の民間委託に伴い、JA阿蘇では職員ほか現在23名の検査員が登録されています。平成18年度産米は約28万俵の集荷が見込まれ、検査員が管内の検査にあたります。

## JA阿蘇親善野球大会 阿蘇町チームが優勝

第5回JA阿蘇親善野球大会兼熊本県役職員野球予選大会が7月8日、阿蘇市の農村公園あびかで行われました。大会には一の宮、高森、白水、長陽、阿蘇町、小国郷、西原・久木野の7チームが出場。朝の雨が心配されましたが、何とか大会を行うことができました。

各チームとも白熱の好（珍）プレーを演じ、応援席を沸かせました。決勝では阿蘇町と一の宮の戦いになりましたが、最終回の猛烈な雨で降雨コールドゲームになり阿蘇町チームが優勝しました。

優勝チームは、9月2日に行われる県大会に出場します。



「タンスの肥やし」  
なっていないませんか？」



JA阿蘇女性部高森支部は「和服は日本人の心、タンスに眠っている着物を日々の暮らしの中でもっと着よう」と、部員10人が参加し着物着付け教室を開きました。

この試みは支所職員が着物の着付けを女性部員に指導、6月14日から毎週水曜日に計4回行ってきたものです。

着物の美しさとは時・場所・場合に応じた装いに着物・帯・小物との調和が大切と、帯の種類を第1回目から半幅帯・名古屋帯・袋帯とを学び、7月12日の最終日には全員でお披露目をしました。

参加者は「今回の教室でタンスに眠っている着物を活用できよかった。まだ、自分では着ることが出来ませんが、最終的には自分で着物を着るのが目標です」と語っていました。



着付け教室に参加した女性部員の皆さん

### ドラコン地区大会に備え 事前研修を行う

「給油所の接客・点検・技術サービスの向上を図り経営の強化に資すること」を目的として開かれる、JA・SSドライブウェイサービスコンテストの前に7月18日、一の宮給油所で給油所スタッフを対象とした事前合同研修会を開きました。

### JA阿蘇一の宮管内 フクユタカを約50haで栽培

JA阿蘇一の宮管内では6月3日より大豆機械利用組合による大豆「フクユタカ」の播種作業が始まりました。

近年、転作作物として定着した大豆は、今年度の生産面積は約50haとなり、昨年度より約5ha増加しています。

JA阿蘇では品質向上と統一を図るため、農家には3作業以上（播種・刈り取り・乾燥調整）の作業委託を大豆機械利用組合

黒川給油所長兼熊本県JA・SS阿蘇地区代表の森一成所長が「8月2日、西原給油所でドライブウェイサービスコンテストJA阿蘇大会を開催する。選手の皆さんは勿論、他のスタッフも日ごろ行っている接客・点検・技術サービスにより磨きをかけて頂きたい」とあいさつ。

本年度の大会より、競技車輛や審査項目が一部変更されており、参加者はポネット内のチェックや、接客話法などを学んでいました。

と結んでもらっています。

大豆オペレーターの市原恭一さんは「今年度は例年になく雨が多いため、播種作業が順調にいくか不安だけど、秋には立派な大豆の実が取れるように頑張ります」と話していました。



大豆播種作業を行うオペレーター

### 表紙写真「波野のキャベツ畑」の説明

高冷地という気象条件を活かして、阿蘇市波野（旧・波野村）でキャベツ栽培が行われるようになったのは、昭和30年代です。そして昭和42年、キャベツの指定産地となりました。現在、同地区では30戸の生産農家が80haで栽培。一昨年は3,200tを熊本県内を中心に福岡・北九州方面に出荷し、販売額は約2億5,000万円となっています。

馬見原SS、タイヤ958本  
全国4位の販売実績で優良賞



J A阿蘇馬見原SSの春木光幸所長(中央)と  
スタッフの岩さん

6月15日、JAグループ石油事業表彰大会が福岡で開催されました。福岡浩之全農燃料部次長が「これからは、今まで以上に足腰の強さが求められてくる」と主催者挨拶を行った後、JA、SSカーケア商品販売マツチレース審査報告があり、表彰式が行われました。その結果、JA阿蘇馬見原SSが「タイヤの部」において昨年度958本を販売し、全国で4位の実績を上げたことから優良賞を受賞しました。

## 統一したサービス提供を JA-SSの接客研修会



馬見原JA-SS全景



表彰を受ける春木所長

「タイヤのことは任せて！」  
労働安全衛生法で特別教育

JA阿蘇は7月12日、労働安全衛生規則で定められているタイヤの空気充てんに関する法律の特別教育を、プリチアストーンタイヤサービス九州(株)阿蘇店の富岡達也店長を講師に本所で行いました。

富岡さんは「毎年、全国で数件の死亡事故が発生している。自分の身の安全を守るためにも本日学ぶことを、明日より実践で生かしていただきたい」と述べ、受講者は講師の説明やスライドを見ながら学び、質疑応

JA阿蘇ではお客様への「接客・統一したサービスの提供」を目的に、管内全SSスタッフを対象に6月15日、一の宮SSにて研修会を開きました。

後藤安弘担当常務より「挨拶・正装・統一したサービスを提供し、JA阿蘇のイメージアップを」との研修の主旨が説明され、研修会が進められました。

研修会では、西原SSの馬場弘さんが模範演技を行い、各所長よりスタッフへの指導が行われました。



購買部後藤次長の挨拶



接客サービスの研修



夜遅くまで続けられた接客指導



講師の説明を熱心に聴く所長たち

答も飛び交いました。今回の教育は管内給油所長クラスを対象に行ったもので、今後、他のスタッフについても随時、特別教育に参加してもらい知識及び技術の向上を高めて行く計画となっています。

## 理事会・監事会報告

### ■ 平成18年度第4回理事会

日 時 平成18年6月26日 午後1時30分  
場 所 一の宮中央支所会議室

- 1.開会
- 2.組合長挨拶
- 3.協議事項
  - 5月末実績報告
  - 1) 全国監査機構決算監査改善指示書について
  - 2) 平成17年度決算監査監査回答書(案)について
  - 3) 貸出金について
  - 4) 信用事業方法書の一部変更について
  - 5) 郷の四季補助金返還について
  - 6) 出荷契約金の仮渡金について
  - 7) 指定管理者申請について
  - 8) WTO農業交渉に関する特別決議について
  - 9) 非常勤理事研修について
  - 10) 技術職員募集要領について
  - 11) 職員夏季賞与支給について

### ■ 平成18年度第5回理事会

日 時 平成18年7月31日 午後1時30分  
場 所 一の宮中央支所会議室

- 1.開会
- 2.組合長挨拶
- 3.協議事項
  - 6月末実績報告
  - 1) 全国監査機構決算監査回答書(案)について

- 2) 信用事業方法書の一部変更について
- 3) 自動車・農機ローンキャンペーンの期間延長について
- 4) 貸出金について
- 5) “かつ”りょく強化対策事業にかかる施工方法及び建設委員の選任について(ブルーベリー冷凍庫)
- 6) 新山村振興等対策事業にかかる施工方法及び建設委員の選任について(ハウスリース事業)
- 7) 新規参入円滑化等対策事業実施及び施工方法・建設委員の選任について
- 8) 平成19年度職員採用について
- 9) 専門委員会委員の選任について(阿蘇町中央支所管内)
- 10) 支所運営委員の交代について

#### 報告事項

火災共済の掛金適用誤りについて  
JAバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項報告」について  
余裕金運用状況について  
信用評定委員会の報告について  
盆の対応について

### ● 平成18年度第3回監事会

日 時 平成18年6月23日 午後1時30分  
場 所 本所会議室

- 1) 平成18年度米麦等欄印監事監査の実施について
- 2) 平成17年度全国監査機構決算期末監査報告書について
- 3) 平成18年度監事会視察研修について
- 4) 平成18年度監事研修会の開催について
- 5) その他

### JA阿蘇職員異動のお知らせ

氏 名	新 辞 令	発 令 年 月 日	旧 辞 令
後藤千奈美	一の宮中央支所購買課購買係(一の宮グリーン)	平成18年6月 8日	購買部購買課購買係
山部 聡輔	一の宮中央支所購買課購買係(一の宮グリーン)	平成18年6月 8日	中部営農センター園芸課園芸係(阿蘇町駐在)
松田 浩幸	中部営農センター園芸課園芸係(阿蘇町駐在)	平成18年6月 8日	中部営農センター園芸課販売係(一の宮駐在)
大串 洋介	中部営農センター園芸課販売係(一の宮駐在)	平成18年6月 8日	一の宮中央支所購買課購買係(一の宮グリーン)
田上 穂	営農部農業振興課農業振興係	平成18年7月18日	中部営農センター農産課農産係(阿蘇町中央支所駐在)兼阿蘇町地域水田農業推進協議会出向(事務局長代理)
嶋田 尚仁	中部営農センター農産課農産係(一の宮駐在)	平成18年7月18日	営農部農業振興課農業振興係
中島 潤也	阿蘇町農機センター 車輛係	平成18年8月 1日	新採用
伊沢 孝洋	南部農機センター 車輛係	平成18年8月 1日	新採用
藤川 平政	南部農機センター 車輛係	平成18年8月 1日	新採用

# 平成19年度JA阿蘇職員募集

## 1. 申込書類受付期間

◎高卒（平成19年3月卒業見込み）：学校を通じて申し込みして下さい。

平成18年9月5日から平成18年9月7日

◎高卒（既卒）、短大卒、大学卒：直接JA阿蘇本所に申し込みして下さい。

平成18年9月1日から平成18年9月7日

## 2. 試験日

（一次試験）平成18年9月20日（水）

## 3. 募集要領の配布

本所総務部総務人事課及び各中央支所で配布します。

（お問い合わせ先）

阿蘇農業協同組合 総務部総務人事課 藤原、馬場

電話 0967-22-6111

## JA阿蘇きらり



「仕事も遊びも一生懸命！」

小国郷営農センター事業課

永野 裕美（ながの ひろみ）

昭和54年10月生まれ（住所＝小国町西里）

JA阿蘇小国郷営農センター事業課で、経理事務を担当している永野裕美さん。マイペースだと自称する永野さんも、月末の清算時になると豹変するそうです。そんなしつかり者の永野さんは犬が大好きで、自宅では6匹も飼っているそうです。現在は韓国ドラマに興味があり、数多くのDVDを揃えているとのこと。夢は韓国旅行！！口ケ地巡りをしたいと意気込んでいます。

口惠二”さん。今、一番ほしいものは、彼が写っているポスターだそうです。秋には大阪旅行の計画があり、初めて訪れる宝塚劇場を楽しみにしているそうです。

仕事も遊びも一生懸命！そんな永野さんは輝いています。

